
happy sky。 +°

門無 澪姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

happy sky。+

【Nコード】

N2229H

【作者名】

門無 澪姫

【あらすじ】

快斗の誕生日記念！題名はただ単にHAPPY BIRTHDAYとするのはつまらなかつたからってだけです。急いで書いたのですが、感想や評価くれるとうれしいです。指定してませんが、人によってはBしだと思つかもしれません。若干打ち間違えがありますが悪しからず…

(前書き)

快斗、誕生日おめでとう！

ビルの屋上のフェンスに立ち、不適な笑みを浮かべる…

彼こそ、今世間を騒がしている月下の奇術師怪盗キッド、またの名を

黒羽快斗。

静寂という言葉が最も似合う真夜中、彼にとっては朝飯前である仕事
事を済ませて今に至る…

ふと時計を見ると23時59分…

彼は何の気なしにカウントダウンを始める…

(父の日か…)

空を見上げ雲間から差す月光を仰ぐ…

『3、2、1、0…』

「入っ？」

少し似てはいるが確実に自分の声では無かった…

そしてゆっくりと振り返る…

いつのまにいたのだろうか…

「よお、名探偵」

声の主に自然な笑みをこぼす…

「よくここが分かったなあ」

時刻は12時を十秒ほど過ぎたところだ…

「今日、何の日か覚えてっつか？」

(父ちゃん…)

『父の日。』

「その通り。」

『そしておめえの誕生日、だろ？』

(えっ?)

一瞬ポーカーフェイスを忘れた彼の顔はまさに、マヌケと言つに相違ない…

『やっぱり忘れてるみてえだな。俺もいつつも忘れて蘭のやつに思い出させてもらつんだ。』

「そーいや…」

(すっかり忘れてた…6月21日は俺の誕生日か…)

「だからさつき俺が変装してる時に父の日についてあんなに言つてたわけね。まさかそんな最初っからバシってたとはな…」

『ああ…あのメイドさん、元は左利きで右に直したんだけど箸だけは今でも左で使っらしいぜ？なのにおめえは箸も右で使ってたからなあ…』』

「へえ…なかなかだな、名探偵くん？」

『まあ、とりあえず誕生日…おめでと〜』』

「これはこれは、光栄です…」

いつもの様に怪盗キッドとして気障な振る舞いをしていたのだが、
言うてから少し照れている少年を見てついつい黒羽快斗に戻ってし
まう…

「おめえ、その姿で照れると可愛いなあ」

そう言つて少年の頭に手を乗せ、偽りのない笑顔を零す…

ポカーンとした顔の少年は何を思ったか目をキラキラさせて本当の
弟のように振る舞ってみた…いや、妹といった方がいいのかもしれ
ない…

女の子らしく、頬を赤らめて、精一杯の上目遣い、そして声をできるだけ甘くしてみた。

『そ、そんなことないよ…お兄ちゃん？』

誕生日おめでとう…』

極めつけで少し微笑む…

みるみると赤くなり、沸騰したかのような顔をした黒羽快斗…

それを見た少年は空気を口にこれでもか、といづくらい溜めて一気に吹き出した。

『ぶっはー！はっはっはー！』

腹を抱えて笑い出す少年…

「て、てめえ！」

『どうだ？可愛かったか？可愛かっただろ？』

笑うことを止めない少年とふてくされた彼…

「てめえなあ！」

『いいじゃねえか！誕生日プレゼントだと思ってさ！別に悪い気はしねえだろ？』

少年はなおも笑い続ける彼…

「おまえも俺も最高の恋人に誕生日を祝ってもらってるみてえだな」

少し嫌みを込めて言い、少年がやっと笑いを止めた時だった。

目の前には蘭が…

「瞬考えることを忘れた少年にとどめをさす…

「コナン君、ありがと！だーい好きだよ！」

そう言って頬に短いキスをする…

今度は立場が逆転し、少年が林檎のように顔を赤らめ、彼が大笑いするのだった。

『て、てめえ!』

変装を解いた彼が笑いを止めるのに一体どれほどの時間がたっただろうか…

「ま、まあ、ありがとな!」

『今日は見逃すけど、次こそぜってー捕まえるからな！んで、牢にぶち込んだら飽きるほど祝ってやるよ！』

「楽しみにしてるぜ！」

そうやって彼は空にハンググライダーを広げて消えたのだった。

H
A
P
P
Y

B
I
R
T
H
D
A
Y

K
'
K_o

(後書き)

読んで、B L だろ？と思った方いたらすみません

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2229h/>

happy sky。+°

2010年12月8日02時41分発行